



敬愛

校長 吉田 修

〒183-0027 府中市本町 4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

校長 吉田 修

今回の学校だよりは未来についてです。いつなのかはっきりしない未来のことを「これからの時代」などと言うことがあります。「これからの時代はAIが社会を動かす」とか「これからの時代の主役は君たちだ」などと言ったりします。では、いつからが「これからの時代」なのでしょう。実は既に突入しているのです。学校では児童生徒1人1台端末の整備、社会ではチャット GPT 等の生成 AI の出現、自動運転の電気自動車、電子マネー・電子決済の普及など、10 年前にはまだまだ先と思われていたことが次々に現実のものとなっています。ドローンが進化した空飛ぶタクシーのような乗り物も、近い将来実用化されるかも知れません。

もう過去となった「これまでの時代」に求められていた学力は、どれだけ覚えたか（暗記したか）が問われる時代でした。また、 $2 \times 4 = 8$ のように正解を出せることが重視される時代でした。そういった意味では「正解がある時代」とも言えます。私が中学生の頃のテストは、まさに「記憶力・暗記力・再生力」が試される問題ばかりでした。しかし、「これからの時代」は、学んで身に付けた知識・技能を使って考え、判断し、表現する力が求められる時代です。何が正解なのかも分からない（正解のない時代）、答えのない問いに挑んでイノベーション（変革）していかなければならないのです。

学習指導要領では、

- (1)実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- (2)未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」
- (3)学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」

という三つの力をバランス良く育むことが求められています。まさに「これからの時代」に必要な力と言えます。そしてこれが通知表の観点別評価の項目になっています。

本校でも、1人1台端末の有効活用をはじめ「これからの時代」に乗り遅れないように新しいこと（流行）を取り入れていくとともに、少人数グループでの話し合いや協同学習、音声や文字での表現活動、生徒同士の教え合いなど、古きよき時代から受け継がれてきたこと（不易）も大切にしながら教育活動に当たり、未来を支える子供たちに「これからの時代・正解のない時代に求められる力」を付けていきたいと思えます。

三中生の活躍

1

(敬称略)

バドミントン(個人参加)

「第65回府中市民体育大会秋季大会」少年の部
中学1年生男子シングルス
「優勝」 1年 江口 昂平

男子テニス部

「第65回府中市民体育大会秋季大会」少年の部
中学男子ダブルス
「優勝」 3年 枝 優志 / 3年 碓井 順也
「準優勝」 2年 小池 祐太 / 2年 奥山 竣太
「第三位」 3年 清水 優翔 / 3年 田口 隼也



私の「心に残ったあの一言」

道徳の窓
NO70

「自分の声に責任を持つということ」

非常勤教員 塚越 喜美枝

合唱コンクールが終わりました。1年生は中学に入って初めての、2年生は後輩に向けての、そして3年生は最後の合唱コンクールでしたね。どの学年も力いっぱい歌うことができたと思います。今回は、私が合唱を通して学んだ言葉についてお話しします。

「自分の声に責任をもってください。」

この言葉は、私があるアマチュアの合唱団に所属していた時に、団長から言われた言葉です。この言葉を聞いたとき、これは非常に厳しい言葉だと私は思いました。

自分の声に責任を持つということは、まず音程が正確でなくてはなりません。「音が下がっている!」「(音程が)低い!」少しでも音が外れると、合唱指揮者の先生から強い口調で言われます。音が低いと言われたパートは、音を下げないように最大限の注意を払います。

また、「歌詞の意味を考えて歌っていますか。」と合唱指揮者の先生から聞かれることもありました。その合唱団では外国語の歌を歌うことが多く、歌詞の発音についていくのがやっとで、なかなか意味まで考えられません。それでも、本番のステージは確実にやってくるのです。どうにかしなくてはなりません。かなり焦ります。

そして、音程や歌詞が自分で怪しくなると、どうしても近くの人に頼ってしまいます。そうすると、ほんの少しだけ、自分の歌い出しが遅れます。そうすると、パートとしてのまとまりを欠いてしまいます。加えて、地声で歌うことなどをもってのほかの合唱団なので、常に自分の声を意識しなければなりません。

ひとりやふたりがしっかり歌わなくても、ソロで歌うのではないのだから、大丈夫じゃない?と言われそうですが、そこは、そのような言い訳の通用しない合唱団でした。本番のステージに乗るためのオーディションがあります。私は何度も落ちました。そのたびに、「次は受かろう」と思いながら練習に参加しました。オーディションに受かってステージに乗れたのは、その合唱団に入ってから1年を過ぎた頃でした。

1年を過ぎたころには、自分で音程を確かめ、言葉の意味を確かめ、全体のハーモニーを考えながら歌うことができるようになりました。そして、やっと「自分の声に責任をもつこと」ができたのだと思いました。

合唱は聞いてくださる方々がいて成り立つものです。その方々に満足していただくためにも、ひとり一人が「自分の声に責任をもって」歌うことが大切です。そして、ひとり一人がそのような意識を持った合唱団は、見事な響きを持つ合唱団でもあるのです。

三中生の活躍

2

(敬称略)

10月
October



バドミントン部

「第65回府中市民体育大会秋季大会」少年の部

中学2・3年生男子ダブルス

「準優勝」 3年 中村 悠貴 / 3年 角倉 蓮丞

「第三位」 3年 鈴木 虎胤 / 3年 高崎 愛叶夢

中学2・3年生男子シングルス

「準優勝」 3年 上野 貴裕

中学1年生男子シングルス

「準優勝」 1年 鳥海 遥斗

中学1年生男子ダブルス

「優勝」 1年 齋藤 ルイヤ / 小川 礼馳

中学1年生女子シングルス

「第三位」 1年 山田 あこ

団体戦男子

「優勝」 府中第三中学校

団体戦女子

「第三位」 府中第三中学校

